

2020年2月26日(水)

老球の細道527号

U-15 新人県大会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新型コロナウイルスが騒がれ始めた2月15日(土)16日(日)あいづ総合体育館でU-15の県大会決勝トーナメントが行われた。地元開催だったので地元チーム、今話題になっているクラブチームがどのような試合をするのか興味があつたので観戦させていただいた。

男子優勝は県南地区所属のクラブチーム「ZEPHYRS(爽やかな西風)」、女子優勝は試合巧者の「郡山三中」となった。地元チームは若松三中が唯一決勝まで進み、身長を活かしてあわや優勝かと思われたが今一步届かなかった。しかし、今後の楽しみなチームである。

あらゆるカテゴリーのゲームを観戦すると、トップになるチームには共通した強みがある。ミニからNBAすべてのチームに共通することであるが、まとめると3つ。

① シュートの決定力

アウトサイドシュートの決定力であるが、特に3Pシュートの決定力は世界的な傾向である。そしてシュートフィニッシュの決定力も大きい。コンタクトされても入れる。

② トランジションの速さ

ディフェンスから速攻は一気にゲームの流れを作る。この時間帯で一気に点差がつく。少ない人数で攻撃することによりシュートの確率も高くなる。また、ディフェンスの戻りも速く、決してアウトナンバーで相手に攻撃させない。5:5で守られれば、どんなチームでもせめあぐむものである。

③ ディフェンスのプレッシャー

特にボールマンのプレッシャーが激しい。昨年ワールドカップに出場した男子の日本代表選手はこのことで相当苦勞したという。そのため今シーズンBリーグの試合はディフェンスの激しさが目につく。スペースがワンアームからハーフアーム、時にはゼロアームと激しくなっている。

今大会この3つのことを実現していたのが男子優勝のZEPHYRS。その結果圧勝だった。聞くところによるとあちこちの中学校の優秀選手が集まったクラブチームらしいが、皆ひたむきに走り、守る、よく指導されたチームであった。

中学校先生の多忙化などで、生徒や保護者たちがよりよいバスケット環境を求めて今後ZEPHYRSのようなクラブチームが増加するかもしれない。チーム力の格差が顕著になるかもしれないが、もともとは同じ中学生である。中学校チームもあきらめないで、現状の中で知恵と創意工夫を駆使して子どもたちの夢を後押ししてほしい。

「クラブチームにはかないっこない」という声も聞こえるが、スポーツは勝つか負けるかやってみないとわからないという前提だから面白い。自ら決めつけて、戦う前に勝敗の判定を下すのは愚の骨頂である。狙うは常にアップセット(番狂わせ)あるのみ。